

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ

服部 桂祐（生物科学専攻、林研究室、食品業界、開発）

① 就職活動を終わっての感想

正直に言えば楽しさ半分、辛さ半分でした。しかしそんな感情よりもなにより、就職活動をやってよかったと今でも実感しています。それはより深く自分のことを理解でき、また目標が持てる企業を選びだすことができたからです。

② 就職活動前に普段から心がけておくべき準備

（就職活動を終わって活動前にやっておけば良かったと思うこと/いつの時期に何をすれば良かったと思うか?）

将来何をやりたいか、ということを中心に考え、また狭い世間で生きるのではなくいろんなことに挑戦しながら生活すべきだったと感じています。それらはきっと直接自己分析に繋がり、業界研究や企業選びをスムーズに進める手引きになります。

就職活動直前に慌てて将来を考えるのではなく、日々思い描いた将来像に向かって行動できる場にすれば、必ず満足のいく結果がでるのだと思います。またそのためにも新聞を読んで社会を知ることが大切なことだと感じました。

③ 生物学類の教育（広く生物学教育）を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種、または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

そういったことを感じたことはありません。コンサルや鉄道、または営業など様々な業界、業種を受けましたが、自分なりの思いがあればどうにかなるというのが素直な感想です。「何故、生物学を研究してきて、関係のないこの仕事をやりたいの?」という質問に、自分なりの信念を持って解答できればどこにだって通用します。むしろ視野が狭まり、食わず嫌いのように目を向けにくい業界や職種を持つことは本当にもったいないと思います。

④ 就職活動中にとった戦略について

（ES、筆記試験、面接。さらに、生物学類での教育がどのように生かされたかなどあれば可。）

生物学類の教育で就職活動に生かすことができた事例は、生物学類の様々な行事だと思います。大学説明会、研究室見学、生物チャレンジ、国際生物学オリンピックなど、自分が主体的に参加した行事は、自分の人柄を語る上でのエピソードとして面接やESで使用することができました。やはり何か目的を持って、いろいろな行事に参加することは、自分の成長に繋がり、その結果就職活動などで語れる内容になります。そういった意味で、生物学類が企画して頂いた行事というのは、とても有益だったと感じています。

⑤ 生物学類教育に望むこと

生物学演習の制度を見直してもいいのかなと感じています。生物学類生の多くは学類時代に就職活動を経験せずに進学してしまいます。その1つの要因として、私は生物学演習だと思います。大体3年生の3学期に生物学演習が始まりますが、それはちょうど就職活動の始まる時期でもあります。生物学演習に熱心になるあまりに、就職活動に意識が向かなくなり、結局は進学の道を進む人は少なくないと思います。ですので、もう少し就職活動がしやすくなるような処置というのがあってもいいのではないかと考えました。

⑥ 将来の抱負

食の流行を発信できる人になりたいです。それは私が就職する会社が原料を扱うメーカーであり、あらゆる食品と関わることができる環境だからこそ可能だと感じています。食品業界全体を見直し、商社など他の業界とも連携することで実現してみたいです。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received December 2, 2011.